

## 防災デイキャンプ 実施後の生徒の感想 紹介

### 1年生の感想

僕は「足に不自由がある方の立たせ方・運び方」で先輩が実演してくださったのを見たとき運べるのかな」と思いました。でも実際にやってみると、手をしっかり握っているのとて

そして仮設トイレの作り方では、僕は最初「トイレは汚いから嫌だな」と思いましたが、は絶対に必要なものだと考えながらやりました。

最後に、災害に遭ったときは協力が必要だと言うことをこのデイキャンプで学びました。しからないので、あったらすぐに地域の人と協力していきたいと思いました。



2年生は、松ぼっくりと松の葉を集めました。



松ぼっくりは、よく燃えるので燃料として使います。

松の葉には、においを消す効果があります。

今日は、学校のまわりや校庭の北側、西側で15分ほど集めました。

集計した結果、1組1942個、2組787個、3組1378個でした。

皆さんの熱心で全力な活動により、たくさんを集めることができました。

松ぼっくりは、東階段の一番下のところにある倉庫にしまっています。

追伸：1組は学校の南側の道路、2組は校庭の北側、西側、3組は学校西側の道路で作業しました。校内は主事さんが定期的に掃除をしてくれたり松の木がすくな

かったりするので、2組の数は少なめです。

3年1組でHUGを行った感想を発表します。一番困ったことは、高齢者や乳児等のケアが必要な人が多く、その人たちの適切な配置を考えることでした。なので、どんな人が来るのか想定し、その人たちにあった部屋割りをする必要があったと感じました。

また、たばこを吸いたい人やペットと一緒に過ごしたい人がいて苦戦しました。

いろいろな要望を持った人がいるので、それを全部かなえるのは難しいけど、常に平等になることを意識して迅速に判断することが大事だと思いました。





私たち 2 組が「HUG」を行ってみて、困ったところは、避難者の条件に合わせて、場所を選ぶことでした。ペット連れや病人、中には 90 歳を超える人もいる中で、一人一人に合わせて、どこが一番その人にとって最適か考えるのが大変でした。でも、たばこを吸いたい人のために、受動喫煙を避け、生徒玄関を喫煙所にしたたり、子どもたちの不安とストレスを減らせるように、体育館内に子ども用の遊び場を設置したりすることもできました。これを踏まえ、私たちは、避難所側は、避難所についてもっと知り、普段から「もしも」を想定しておくことが大切だと考えました。避難する側に必要最低限のものを

事前に用意し、避難所へもっていくこと、そして、大勢の人と長期間暮らすことができるように周りを意識して行動することが必要と考えました。

私たち三組が「HUG」を行ってみての感想です。

まず、ゲームを進めていく上で「何が一番困ったか」という問いでは、年齢や事情を意識しつつ、優先すべきことを第一に考えることが大変でした。特に、ペットや病気、障害を持っている人への対応が難しかったです。

避難所側としての改善点は、使用できる部屋とできない部屋をなるべく早く把握し、有効に利用することでした。

避難する側としての改善点は、前もって用意できるものはしておき、自分の要求ばかり運営に押し付けないようにしたことです。(たとえばタバコなど)

周りに迷惑をかけないように、すばやい行動を心がけることが大切なことでした。

最後に、「体育館の区割りをどう工夫したか、後で『こうすればよかった』などの意見」についてです。

工夫したことは、車を持っている人には車でなるべく過ごしてもらおう。ペット用の部屋を他のことを配慮したうえで作るなどが挙げられます。

「後でこうすればよかった」と感じたことは、とにかく「利用できる場所を上手に有効活用できなかった」ということです。体育館のステージや木工室などが有効活用できませんでした。

「HUG」を体験してみて、3 組では無駄な部分が多かったと思います。いざというときに良い対応ができるよう普段から意識しておこうと思いました。

